

1 章

— 概 要 —

平成 20 年度老人保健事業推進費等補助金事業

介護予防事業における運動器の機能向上と生活空間等に関する調査研究事業

介護予防を有効に評価するための E-SAS

(無作為化比較試験デザインによる多角的検証)

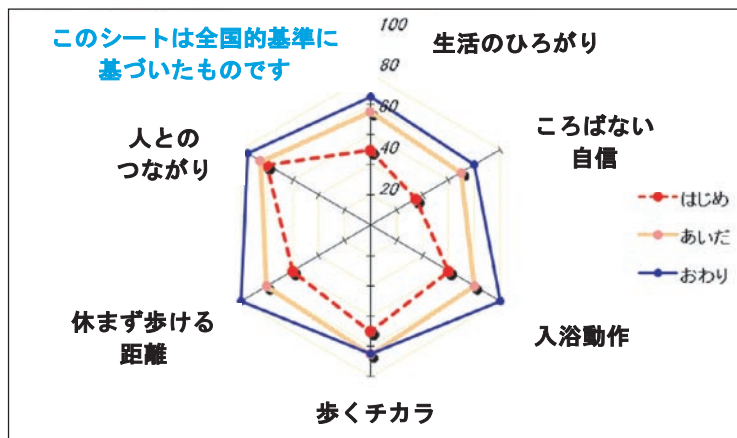
～ 概 要 ～

【はじめに -E-SAS とは-】

介護予防の効果はその理念である「自立支援」に照らして評価すべきである。しかし、高齢者の地域生活の営みは多様多彩であり自立支援効果の評価は困難であった。

E-SAS (Elderly Status Assessment Set) は「イキイキ地域生活度」という高次概念

の導入によって自立支援効果を客観的、具体的にとらえることを可能にした評価セットである(右図)。「イキイキ地域生活度」は、「生活のひろがり」「転ばない自信」「入浴動作」「歩くチカラ」「休まず歩ける距離」「人とのつながり」を結ぶ六角形で表される。それぞれの指標には介護度別基準値があり、「生活のひろがり」と「歩くチカラ」



の組み合わせによって対象者を類型化したり、手段的ADL能力の低下を予測したりすることもできる。ともすれば単なる筋力アップ教室に陥りかねない介護予防事業を、真に「イキイキとした地域生活」の獲得を目指す事業とするために、E-SASは必要不可欠な評価ツールである。

【本年度事業の枠組み】

E-SASの開発は平成17年度から平成19年度までの事業により完了した。

本年度は、参加者の行動変容を支援する「イキイキ地域生活ノート」(右図)を試作したうえで、E-SASを実用に供し、その効果を多角的に検証した(Part I)。

また、評価セットとしての臨床的価値を高めるために1年後の手段的ADL能力(IADL)の低下に対する予測妥当性の検証(Part II)とE-SASの汎用性を高めるための予備的な検討として、要介護高齢者を対象とした評価セットE-SAS plus(仮称)の構成項目を検討した(Part III)。

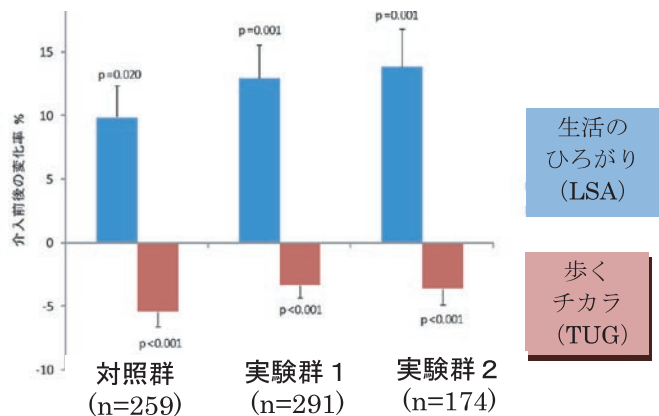


【 事業成果 】

Part I 無作為化比較試験デザインを用いた E-SAS 効果の多角的検証

無作為化比較試験デザインを用いて、E-SAS の評価のみを利用する群（実験群 1）、評価と「イキイキ生活ノート」による積極的介入を行う群（実験群 2）、従来通りの評価・介入を行う群（対照群）の 3 群を構成し、3 か月後の変化について群間比較を行った。

その結果、指導者の行動変容に関しては E-SAS の積極的利用が、外出に着目した指導を促すことが確認できた。一方、参加者の変化に関しては「生活のひろがり」と「歩くチカラ」の変化（右上図）をはじめとして 3 群すべてに効果が

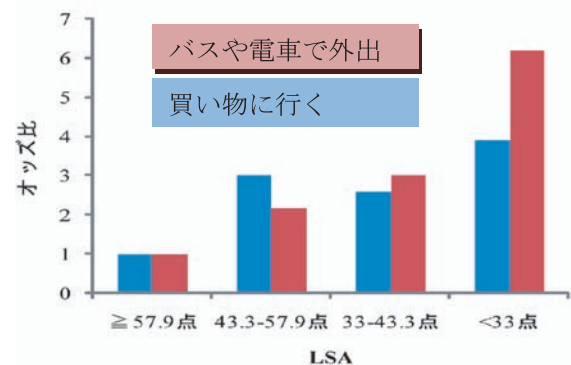


みられた。E-SAS の優位性を検証する期間として 3 か月間は短すぎたのかもしれない。

その他、E-SAS 評価の特徴である「活動的な地域生活の視覚化」に伴う数々の反響を得た。

Part II 1年後の手段的 ADL 能力の低下に対する予測妥当性の検証

平成 19 年度事業の対象者でバスや電車を使って外出していた高齢者 183 名のうち、1 年後調査で「できない」と回答した者は 70 名（38.3%）であった。同様に、買い物ができた 324 名のうち「できない」と回答した者は 77 名（23.8%）であった。ステップワイズ・ロジスティック回帰分析の結果、「生活のひろがり (LSA)」の低値はこれらの IADL 能力の低下を予測する指標となることが確認できた。



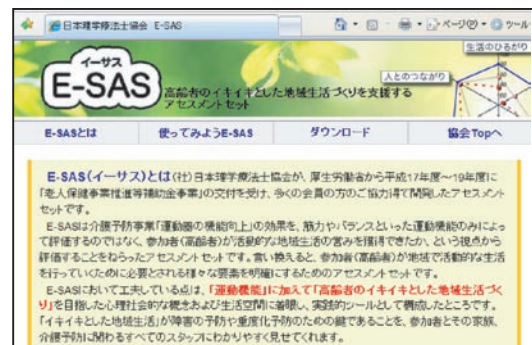
Part III E-SAS plus (仮称) に向けて

平成 16 年度老人保健事業推進費等補助金事業の際に作成したデータベースより要介護度 1～5 の在宅高齢者 1419 名を抽出、分析したところ、在宅要介護高齢者にとっての「イキイキ地域生活」は「している ADL」「離床時間」「移動能力」の 3 指標によって説明できる可能性が示唆された。

【 おわりに 】

日本理学療法士協会はこれまでの事業成果を社会に還元すべく E-SAS の無料ダウンロードサービスを提供している。介護予防事業に関わる多くの人々にこのサービスを利用してもらい、「イキイキした地域生活」実現のための効果的な取組がひろがることを願っている。

（無料ダウンロードホームページアドレス <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpta/e-sas1.html>）



委員長 (社) 日本理学療法士協会 金谷さとみ